

EUSI メールマガジン Vol. 101

「EU・トルコ関係の現在——修復は可能か？」(東野篤子)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 083】

「EU・トルコ関係の現在——修復は可能か？」

東野篤子 (筑波大学人文社会系准教授)

今年6月末、EUは『グローバル戦略』を発表し、英国の離脱が確実になった後も(確実になったからこそ、というべきか)、EUがグローバルなプレイヤーであり続けるための指針を示した。

EUが自らを取り巻く国際的な諸課題に効率的・効果的に対処していくために未だ多くの課題が残されていることは明白ではあるものの、とりわけここ数十年のEUの対外関係充実に向けた努力は着実に実を結びつつある。世界のあらゆる地域や国家との関係を緊密化してきているEUは、自らの対外政策の失敗例だけでなく、成功例についても多くを語る事が出来るようになってきており、『グローバル戦略』にもそうした自信が見え隠れしている。

唯一の例外が存在するとすれば、それはEUとトルコとの関係であろう。両者の関係はこれまでも多くのアップダウンを経験してきたが、難民問題やシリア問題でのEU・トルコ協調の必要性が強調されてきたこととは裏腹に、近年の両者の関係はこれまでに経験したことがないほど冷却化していると指摘されている。そこで本稿では、近年のEU・トルコ関係の経緯と現状について概観し、問題点を明らかにしたい。

難民問題を巡るEU・トルコ関係:

まず考察すべきは難民問題の急激な悪化である。

同問題の解決は、ここ数年世界で最大規模の難民を受け入れてきたトルコにとっても、そしてトルコからギリシャに向かう難民の波に直面したEUにとっても、まさに喫緊の課題であった。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol83.pdf>

【EUSI イベントご案内】

1. 一橋地中海研究会「低迷するギリシアの現状」

EUSIは、一橋地中海研究会主催の以下の研究報告会を後援します
出席をご希望の方は、以下の連絡先までEメールで予約して下さい

日時: 2016年10月2日(日) 15:00～

場所: 一橋大学国立東キャンパスマーキュリータワー5F 3503号室(EUSI 会議室)

村田奈々子 (東洋大学文学部史学科准教授)
「低迷するギリシアの現状」

参加: 出席をご希望の方は以下の連絡先まで E メールで御連絡ください
連絡先: 大月康弘 (一橋地中海研究会代表・EUSI 執行委員)
(otsuki.yasu@r.hit-u.ac.jp)
<http://www2.econ.hit-u.ac.jp/~areastd/mediterranean/index.html>

2. ジャン・モネ EU 研究センター(慶應義塾大学)「第 86 回慶應 EU 研究会」

日時: 2016年10月8日(土) 10:30-12:00
場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 南館4階会議室

庄司克宏 (慶應義塾大学法務研究科教授、ジャン・モネ EU 研究センター所長)
「新著『欧州の危機 Brexit ショック』について」

主催: ジャン・モネ EU 研究センター(慶應義塾大学)
参加: 無料・事前登録不要 (どなたでも参加できます)
http://www.jean-monnet-coe.keio.ac.jp/workshops_jpn.html

3. アンドレア・オルトラニ先生より下記シンポジウムのご案内が届いています 「日伊国交 150 周年 日本及びイタリアにおける過去・現在のビジネス法」

日時: 2016年10月26日(水) 10:30-17:00 (10:00 開場)
場所: イタリア文化会館 アニェッリホール (東京都千代田区九段南 2-1-30)

10:50-11:55 日伊修好通商条約
ベルテッリ・ジュリオ・アントニオ (大阪大学教授)
「未知なる世界と交渉して 1866年の日伊修好通商条約とその歴史的意義」
太田昭子 (慶應義塾大学教授)
「岩倉使節団とイタリア」

11:55-13:00 日本・イタリアにおける商法の発展
鈴木千佳子 (慶應義塾大学教授)
「日本会社法の改正のあゆみ」
ジョルジ・マルコ (ローマ・トル・ヴェルガータ大学講師)
「イタリアの商法と会社法 独自性, 交雑, 移植の歴史」

14:30-16:00 M&A についての Q&A 日伊における非公開企業の買収に関して
末岡晶子 (弁護士、森・濱田松本法律事務所(東京))
「日本法律実務家の経験」
ビアンキ・ステファノ (弁護士、Pavia e Ansaldo 法律事務所(ミラノ))
「イタリア法律実務家の経験」

16:00-17:00 イタリア及びヨーロッパにおける M&A
大久保功 (GCA 株式会社マネージングディレクター)
「イタリア及びヨーロッパにおける M&A 日本の視点」

言語: 英語・日本語 (日英同時通訳付)

参加: 無料・事前申込要

件名を「10月26日シンポジウム」とし、名前・電話番号・参加人数を明記の上、
メールにて eventi.iictokyo@esteri.it までお申し込み下さい

http://www.iictokyo.esteri.it/iic_tokyo/ja/gli_eventi/calendario/2016/10/150-years-of-friendship-and-commerce.html

【EUに関する新刊紹介】

細谷雄一『迷走するイギリス EU 離脱と欧州の危機』

(慶應義塾大学出版会、2016年9月29日刊行)

<http://www.keio-up.co.jp/np/isbn/9784766423730/>

本書の著者である細谷雄一先生より、本書のご紹介を頂きました。

2016年6月23日の国民投票の結果は、世界中に巨大な衝撃を与えた。イギリス国民が、EUからの離脱の意思表示をしたのである。リスボン条約50条によって、はじめて加盟国が離脱をする際の規定が条文に加わった。これによって、イギリスは、1973年に当時のEC(欧州共同体)に加盟してから40年を超えて維持してきた加盟国としての地位を失うことになる。

ふだんはあまり日本では関心を持って報道されることのないイギリスとEUとの関係について、それからしばらくは日本のメディアでも大変な関心を持って報じられた。さらには、翌日の6月24日にはやくも日本の安倍晋三政権は、「英国のEU離脱問題に関する関係閣僚会議」を開催して、この問題を検討した。同様に、アメリカ政府や中国政府もただちに政府の見解を表明して、この危機が世界経済全体に悪影響を及ぼさぬよう努力を続けている。それにしても、そもそもなぜ、イギリス国民はEUからの離脱を決定したのだろうか。

この問題をめぐっては、大きく分けて2つの論調が顕著に見られていた。1つは、そもそもイギリスはEUとは経済体制も歴史文化も異なるために、離脱をして当然だし、離脱をするべきだという議論である。たとえば、イギリスのジャーナリストであるエコノミストであるロジャー・ブートルの『欧州解体—ドイツ—極支配の恐怖』(町田敦夫訳(東洋経済新報社、2015年)などはその代表と言える。これは「EU性悪説」である。

他方で、イギリスにとってEU加盟が国益であることは自明であるために、離脱することは合理的に考えられないという論調も根強かった。いわば、「EU性善説」である。これはいずれも、EUに関する見方、そしてイギリスのEUへの姿勢について、かなりの程度強い確信を持って論じられていた。

...

(続きはこちら↓)

<http://eusi.jp/outreach/outreach-report/hosoya-2016/>

細谷雄一 (慶應義塾大学法学部教授、EUSI 執行委員)

【EUに関するニュース】

2016年9月1日 EU・中国間、サイバーセキュリティの経済側面やデジタル経済の発展に関する対話創設

2016年9月2日 仏独首脳会談、仏東部エビアンで開催。英 EU 離脱後の結束や経済・安保問題等を協議

2016年9月2日 英国のEU離脱に関する日本政府タスクフォース、円滑な離脱や企業環境求める声明発表

2016年9月2日 英 EU 残留派団体「Open Britain」創設。超党派議員3名が中心、EUと開かれた関係を目指す

- 2016年9月2日 アイルランド、アップル社への税優遇は違法とのEU判断に対しEU司法裁提訴を閣議決定
- 2016年9月2-3日 EU外務理事会非公式会合、EU・トルコ関係やテロ対策、東方パートナーシップ等協議
- 2016年9月3日 ルペン仏国民戦線(FN)党首、来年仏大統領当選なら仏EU離脱を問う国民投票実施と公約
- 2016年9月4日 エッティンガー欧州委員、EUのアニメ産業の競争力強化に向け来年までに行動計画策定
- 2016年9月4-5日 G20杭州サミット。政策協調強化や経済金融秩序、英EU離脱の影響等含む首脳声明採択
- 2016年9月5日 EUオンブズマン、バローゾ前欧州委員長のGoldman Sachs系列社会長就任に懸念示す書簡
- 2016年9月5日 モゲリーニ上級代表、EU大使会議にて、EU新グローバル戦略及びその実施に関して演説
- 2016年9月5日 デービス英EU離脱担当相、英下院で演説。英・EU間の経済・安保等の新たな関係性謳う
- 2016年9月5日 EU報道官、北朝鮮のミサイル発射は国際的道義違反、六者協議等の対話解決求める声明
- 2016年9月6日 EU海軍部隊アタランタ作戦ルイクス司令官、海自旗艦「すずつき」訪問。同艦性能視察
- 2016年9月6-7日 ベルギーの研究機関BRUEGEL年次会合、EU予算・欧州安全保障・エネルギー同盟等協議
- 2016年9月7日 欧州委員会、空港保安設備のEU共通認証制度の導入を提案。安全強化や市場拡大が目的
- 2016年9月7日 モゲリーニ上級代表、グランディ国連難民高等弁務官と難民危機に対する協力協議
- 2016年9月7-9日 トゥスク常任議長、英除くEU27カ国首脳会議意見調整のためアイルランド等6カ国訪問
- 2016年9月7-9日 EU及び欧州サッカー連盟(UEFA)、スタジアムセキュリティ会議。暴力やテロ対策協議
- 2016年9月8日 トゥスク常任議長とメイ英首相、初会談。英、来年1・2月頃に離脱通告準備整うと言及
- 2016年9月8日 EU・豪リーダーシップフォーラム、発足。双方の政官民学のリーダーらによる意見協議
- 2016年9月8日 第8回EU・アルバニア安定化・連合協議会、同国の改革進捗や積極的な地域的役割を評価
- 2016年9月8-9日 EU及び中国、研究者の移動や交流を推進するフォーラムを北京で開催
- 2016年9月9日 ユーログループ(ユーロ圏財務相会合)、ギリシャ改革や予算支出割当の共通方針等協議
- 2016年9月9日 仏伊など南欧7カ国首脳、アテネで会談。EU財政出動拡大や経済成長・難民・安保等提言
- 2016年9月9日 EU・トルコハイレベル政治対話、アンカラで開催。ビザ自由化や難民やクルド問題協議
- 2016年9月9日 モゲリーニ上級代表、北朝鮮の核実験を非難、CTBTO事務局長や尹韓国外相らと電話協議
- 2016年9月9-10日 EU経済・財務理事会非公式会合、将来のEU経済政策のあり方や租税回避対策など協議
- 2016年9月10日 モゲリーニ上級代表、シリア暫定停戦に関する米ロ合意を歓迎、停戦維持を求める声明
- 2016年9月10日 欧州委員会、ギリシャでの難民の生活環境改善のため1.15億ユーロの緊急支援を発表
- 2016年9月11日 英EU離脱派団体「Change Britain」創設。スチュアート元保健相(労働党)ら超党派組織
- 2016年9月11-12日 G7保健相会合、神戸で開催。アンドリュカイティス欧州委員参加、公衆衛生等協議
- 2016年9月12日 EU理事会、2017年度EU予算案を採択。雇用や安保・移民対策など重点項目で前年比増
- 2016年9月12日 モゲリーニ上級代表、ブリュッセルでEU28カ国の開発相と開発・難民対策・安保等協議
- 2016年9月12日 キャメロン英前首相、自身の存在が現政権の障害になるとして下院議員辞職、政界引退
- 2016年9月12-13日 トゥスク常任議長、英除くEU27カ国首脳会議意見調整のためマルタなど4カ国訪問
- 2016年9月13日 トゥスク常任議長、英除くEU27カ国首脳会議開催前に、自身の立場明確化した書簡送付
- 2016年9月13日 ルクセンブルク外相、難民受入を非難するハンガリーをEUから除名すべきと独紙に発言
- 2016年9月13日 日・EU外相電話会談、北朝鮮への新たな安保理決議準備やアフガン復興支援会議等協議
- 2016年9月13日-10月20日 第3回EU重層的危機管理演習(ML16)実施。EUの危機管理や即応対応能力等確認
- 2016年9月14日 ユンカー委員長、欧州議会で2016年度EU一般教書演説。欧州の価値や優先課題等を説明
- 2016年9月14日 EU理事会、欧州国境沿岸警備機関(EBCG)創設を最終承認、10月半ばより業務開始へ
- 2016年9月14日 欧州委員会、アフリカや近隣諸国の投資拡大のため欧州対外投資計画(EIP)創設を提案
- 2016年9月14日 シュヴァイスグート駐中EU大使、COP21パリ協定批准に向けたEU・中国間協力謳う声明
- 2016年9月14日 帝国データバンク、英EU離脱の企業への影響調査。51.3%が日本経済にマイナスと回答
- 2016年9月15日 EU理事会、対ロ制裁を6カ月延長。146個人・37企業・団体の資産凍結及び渡航禁止
- 2016年9月15日 欧州議会、英出身キング氏の安全保障同盟担当欧州委員就任を賛成394・反対161で承認
- 2016年9月15日 モゲリーニ上級代表、国際民主主義デーに寄せ、EUの民主主義外交の取組を謳う声明

【編集後記】

今年は明治の文豪夏目漱石が没してから100年目に当たります。

漱石はちょうど20世紀が始まる時期に当時の大英帝国に留学し、英語教育や英文学を研究しますが、漱石発狂という噂が流れるほど精神的なダメージを受けて帰国します。

作家となつてからは、西洋文明を急速に取り入れながら経済発展を遂げていく日本の状況に危惧を抱き続けていました。日本の伝統文化についての深い教養を身に付ける一方で、英文学の研究や英国における留學生活という経験を積んだことが彼の精神を形成し、その独特な作品群を生み出したことは間違いがないと思われまゝ。

世界第一の大国であつた当時と比べると、現在の英国の立場は大きく様変わりをしました。EUからの離脱を選択しなければならないという迷走ぶりやスコットランド政策を始めとする難しい国内問題に苦慮している状況を見ると、国の行く末に迷う苦しい老大国の姿が見て取れるようです。漱石が留学していたころのように日本のお手本として仰ぎ見る存在ではなくなりましたし、当然ながら、英国のアジアに対するそして日本に対する見方も大きく変わりました。仰ぎ見るのでもなく、見下すのでもなく、対等で多重的で双方向の関係を築いていくことが、お互いの国益にとつても精神衛生のためにも必要なことのように思われまゝ。

(藤川哲史・EUSI メールマガジン編集担当)

今年は4年に一度開催される欧州のサッカーの祭典、UEFA 欧州選手権(EURO2016)の開催年に当たります。6月から7月にかけて厳しい予選を突破した欧州24カ国と地域が威信をかけて戦い、その結果ポルトガルが初の栄冠に輝きました。

ですが、この大会を開催するというのは大変な運営を強いられており、警備に大量の警察が動員されたり、試合によっては催涙ガスや高圧放水が放たれたり、観客の激しい暴動により試合が中断したり最悪の場合は没収試合になったりと、心落ち着いて観ることのできない展開も残念ながら起こっています。

このような中でEUは、UEFAと共に「UEFA・EU スタジアム・セキュリティ会議」という会議を毎年9月に開催しています。今年は9月7日から9日までブカレストで開催されました。この会議では、スタジアム内外での暴動、火薬類などの危険物の対応、人種差別に対する取組からテロ対策に至るまで、様々な問題が話し合われています。

国際試合に関する運営や規律制定などは直接的にはUEFA自身が行っていますが、EU側は主に警察・司法内務分野に関する情報提供や協力を行うことで、両者は独自の取組を深めています。「スタジアムの安全という分野にもEUがコミットしているのか」というのを見るのは意外な発見でしたが、国際的なサッカーの運営には、UEFAや傘下各国フットボール協会のみならず、EUのような地域機構やクラブチームや選手会など、さまざまなステークホルダーが絡んでいるんだなど改めて感じた次第です。

折しも、昨年11月のパリ同時多発テロ事件の現場の一つとなったサン＝ドニにあるスタッド・ド・フランスは、今年のUEFA 欧州選手権の決勝戦の舞台でもありました。一部の暴徒による混乱に巻き込まれることなく、多くの善良な市民やサポーターたちが今後も安心して応援できる環境を維持してもらいたいなど願っています。

(林 大輔・EUSI メールマガジン編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo
〒186-8601 東京都国立市中 2-1
一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局
TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら
E-mail: info@eusi.jp
